

機関番号：37111

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2007～2010

課題番号：19401016

研究課題名（和文） 旧台北帝大に遺存する国学者・長沢伴雄の旧蔵書に関する総合的研究

研究課題名（英文） The overall research on old collection of books of Japanese classical literature scholar NAGASAWA TOMOO that remains in old Taipei empire university

研究代表者

高橋 昌彦 (TAKAHASHI MASAHIKO)

福岡大学・人文学部・准教授

研究者番号：00216756

研究成果の概要（和文）：台湾大学図書館に残る幕末の国学者長沢伴雄の旧蔵本・長沢文庫のすべてについて調査を行い、これまで以上に正確で詳細なデータを作成した。近年中、目録として刊行予定である。また、文庫中に残る伴雄の和歌和文集『絡石の落葉』の翻字を行い、刊行した。同じく、伴雄や同時代を理解するのに重要な日記について調査を行い、翻字作業にとりかかっている。こちらは出版計画中である。何よりも、和本に関する知識の供与などにより、台湾大学図書館との信頼関係を築くことができた。

研究成果の概要（英文）：We investigated all of NAGASAWA collection(old collection of books of Japanese classical literature scholar NAGASAWA TOMOO, the late Edo period) into the National Taiwan University library. The precise and detailed data was made more than before. A catalog of NAGASAWA collection will be published. And, “TSUTANOOTIBA (TOMOO’s literary works, in the collection)” reprinted and published. And, TOMOO’s diary is very important for understand the times. Publication is being planned. More than anything, we were able to build trusting relationships with the National Taiwan University library, by giving knowledge of a book bound in Japanese style.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	3,700,000	1,110,000	4,810,000
2008年度	3,200,000	960,000	4,160,000
2009年度	3,100,000	930,000	4,030,000
2010年度	2,500,000	750,000	3,250,000
総計	12,500,000	3,750,000	16,250,000

研究分野：日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学・日本史・国学・長沢伴雄・国立台湾大学

## 1. 研究開始当初の背景

長沢伴雄(1808-1859)は紀州和歌山藩に仕え、有職故実の学に通じ、歌人としても本居宣長の養子大平(おおひら)に学んで当時の歌壇において重要な位置を占めた。公務によって江戸・京都に多くの知友を得て、『類題和歌鴨川集』という類題集を編集・刊行(1848年)する。類題集とは歌題ごとに和歌を分類してまとめたものである。近世末期

の類題集には、一定のお金を払えば国学者は勿論、武士・豪農・町人でも自分たちの歌を類題集に掲載することができるという特徴があった。これによって類題集の刊行は時機に適い爆発的に流行したのである。数あるこの種の類題集の中でも長沢伴雄の『類題和歌鴨川集』は最も流布し5編計10冊が刊行され、幕末の和歌壇を主導した歌集として和歌・国学史において特筆されている。

ところがこの活発な文芸活動・経歴にも拘らず、時勢穏やかならず、彼は藩の罪を得て諸役御免、安政6年獄中で自刃する。享年52歳。その伴雄の蔵書が現在国立台湾大学総図書館に「長沢文庫」として残されている。

このように近世後期京都文壇の中心軸の一人でありながら、自筆日記や自筆稿本等が戦前に旧台北帝大に収蔵されたため、当時、同大学で教鞭をとっていた福田良輔氏の数編の論考が備わるほかは、ほとんど取り上げられない状況であり、しかも福田氏は専門外の研究者であった。そして戦後は長く日本人研究者によって本格的に研究されることはなく、台湾大学においても保存というよりも放置といったよい状態が続いていた。

1981年に鳥居フミ子氏によって、ようやく「長沢文庫」の目録が整理されたが（「台湾大学所蔵「長沢文庫」目録」『日本文学』、東京女子大学日本文学研究会編、pp.59-92）、戦前に作られた目録をそのまま援用しただけの簡便な目録で、現在の所蔵状況とは大きく異なるものであるといえる。これは、日本の研究者のみならず、所蔵者である台湾大学にとっても不幸な状況にあるといえる。

本研究では和書の調査に精通した研究者を中心に詳細な書誌を作成し、今後の本格的な研究の基礎を確立する。また自筆稿本類の書き入れ・識語なども網羅して集成することで長沢伴雄の事蹟だけでなく、京都を中心とした歌人・国学者のネットワークをも明らかにすることができると思う。

## 2. 研究の目的

本研究は、旧帝国大学時代に海外に流出し現地に遺存した国学者の膨大な旧蔵書の精査を行ない、国内の資料によってのみ構築された傾向が否めない国学史を是正し、新資料ならびに新しい視座を内外の研究者に公表することによって、近世末期文壇像を再構成することを目的としている。

天保・弘化期（1830年代）以降、日本は徐々に動乱の時機を迎えようとしていた。日本各地の状況はもちろん、海外事情・歴史観・国学思想・有職故実に至る多くの情報が京の天皇周辺に齎され、公家を中心とした尊皇攘夷論者たちによってそれらは集約され研究が進められた。その成果は後に倒幕・明治維新へとつながっていくが、御三家の一家臣でありながら京の公家社会に深く入り込み、そこから得た最新の情報を詳細に記録し、そして本国である紀州藩へ伝えていた人物がいる。それが幕末の国学者・長沢伴雄（ながさわともお）である。

この長沢伴雄の旧蔵書の大部分が昭和初

期に台北帝国大学（現在の国立台湾大学）に「長沢文庫」として収蔵されたことは一部の研究者には知られていたが、正確な情報を伝えてはなかった。

本研究では幕末騒乱の錯綜した情報や知識・思想を記録した505点1269冊に及ぶ「長沢文庫」の全点精査を行ない、ほとんど解明されていない伝記・事蹟を明らかにするのみならず、幕末の情報収集・伝達の諸相、国学者のネットワークにも調査を広げる。さらに、全歌文集および15年以上に亘る自筆日記を調査し、それらすべてを公開することを目的とする。

## 3. 研究の方法

### (1) 「長沢文庫」悉皆調査

ここ数年の科研費による海外調査の成果によって、在外日本古典籍の所在状況および目録の整備などは進められてきた（松原孝俊、『在外日本関係資料調査及び研究論著目録』、pp. 1-65頁、2003）。しかし今後の日本古典籍の海外調査は、これらの先学の業績を受けて、次の段階へ進む必要があるといえる。それは従来の書名目録作成のみの調査で終わるのではなく、国内に現存しない新資料を研究に堪え得る形に整備することである。具体的には資料をデータベース化し、さらに公開することによって研究者への利便性を高める。

前述した鳥居氏の長沢文庫目録は書名目録であり、それ自体、国内の研究者にとって寄与するところは大きい、次の段階の研究資料としては不十分である。本研究では「長沢文庫」505点中、257点を数える長沢伴雄自筆の稿本類の精査をまず行ない、書誌調査はもちろん奥書・識語・書き入れ、人物交流関係などの詳細な情報のデータベース化を試みる。

現地調査は夏季・冬季の年2回に分けて、それぞれ数日間、10人前後で行なう。

### (2) 一次資料『絡石の落葉』の書誌調査・翻字作業

長沢文庫のうち、最重要資料である『絡石（つた）の落葉』稿本群29点の詳細な調査と翻字を行なう。

台湾大学図書館の出版計画を遂行するため、本研究は福岡大学・九州大学の研究者・大学院生を中心としてチームを組んで調査を行なう。『絡石の落葉』に関しては画像データの提供を受けることになっており、日本での翻字作業が可能であるが、詳細な書誌調査は現地で原本精査を行なう必要がある。

翻字に関してはチーム全員が分担し各個人の作業とするが、月に1回程度の研究会を開き、各自の作業の進捗状況を報告し、その都度問題点を提示・解決する。さらに研究会では、具体的に難読文字の解説や国学・和歌関係の知識に関して研究代表者や研究分担者が若手研究者らに教示して、文字解読能力の向上を図るとともに知識を共有することで高い資料性の保持に努める。

画像データの提供によって作業効率は飛躍的に向上するが、やはり原本と照応して確認しなければならない箇所が出てくると考えられる。それらは自筆稿本の悉皆調査を行なう際に併せて確認する。

#### (3) 一次資料『伴雄の日記帖』の書誌調査・翻字作業

『絡石の落葉』は清書された稿本で、書かれた文字は比較的判読は難しくないが、18冊の日記群は他人への公開を前提としていないため、文字の解読は非常に困難な作業である。また内容的にも人物関係・国学思想・歴史・有職故実など多岐にわたり、専門性もより高くなっている。そこで、日記群の翻字は長沢伴雄についてここ数年研究を行ってきた亀井森を中心として行い、さらに国学を専攻する院生を作業助手に加えることとする。(2)と同様に、日記群も画像データの提供を受けるが原本確認が必要な箇所については現地悉皆調査の際に併せて確認を行なう。

#### (4) 台湾大学総図書館司書への日本古典籍の書誌作成技術指導

わが国の古典籍調査において、まず行なわれる基礎的な調査として書誌調査がある。この書誌作成の技術を修得するには、特殊な用語に関する正確な知識と多くの経験とを必要とする。正確な書誌を載せる目録はそれ自体に高い資料性を有するのである。

台湾大学図書館には3万冊に及ぶ日本古典籍が所蔵されている。しかし未整理の段階にある古典籍が相当数存在する。これらの未整理古典籍群に関して、図書館側は一定の保存処理は行なっているものの、彼らは日本古典籍に関する書誌作成の技術を持たないために目録化すらできず、書誌作成は日本からの研究者に委ねるしかないのが現状である。

本研究では、この現状に対して我々が持つ書誌作成の技術を、同図書館司書の方へ指導したいと考えている。単なる書誌の知識を教授するだけに留まらず、実際に我々と作業を行ないながら経験を積むことで将来的には図書館側がこの未整理古典籍を独自に整理・目録化を進められるようにしたい。

#### 4. 研究成果

(1) 長澤文庫の悉皆調査は4年間で無事終了し、詳細な書誌データを台湾大学図書館に渡している。目録は、同大学図書館から2~3年後に刊行する計画になっている(契約済み)。内容は、日本人研究者だけに向けたものではなく、台湾の若い研究者にも理解できる項目を付すことになっている。これにより、今後、台湾において日本文学研究がより盛んになることが期待される。

反響として、古典文学研究に携わっている大学教員から、個人的に数多くの問い合わせを受けるようになった。実際に台湾に調査に行くという研究者を図書館側に紹介する機会も出てきた。

また、台湾においても、本文庫の価値を広めるために講演会が催され、大学院生を主として多くの聴衆を得たという報告を受けている。

(2) 『絡石の落葉』の書誌調査は1年目に終了し、翻字作業も順調に進んだ。作業に最も多くの時間従事した亀井森の主編、研究代表者高橋昌彦と研究協力者中野三敏(九州大学名誉教授・文化功労者)が出版保証人となって、台湾大学図書館から3冊の本を刊行することができた。

日本での反応もよく、台湾大学への購入希望の問い合わせがあると聞いている。

(3) 長沢伴雄の日記の調査・翻字作業については、書誌調査は終了し、現時点で本字作業は継続中である。台湾大学図書館側からは、5年後を目途とした出版計画が提示されており、それにむけての画像データの提供は受けている。研究期間内での目に見える成果を残すことはできなかったが、却って台湾大学との関係は続いていくことになった。

(4) 台湾大学図書館司書への書誌技術供与については、本研究以前に他の日本人研究者による台湾大学図書館での調査プロジェクトの仕事を手伝う形で行われた。それは、予定よりかなり遅れていた善本目録の作成に、内容から刊行にいたるまでさまざまな形で助力をすることであった(司書からの依頼による)。作業は、2009年12月に『国立台湾大学図書館典藏日文善本解題図録』の出版ということで結実している。我々の研究成果としては、表に出ない仕事であったが、館長をはじめとして、図書館の人々には、より深く感謝された。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計4件)

- ①高橋昌彦、海妻甘蔵編著『己百齋筆語』細目、福岡大学研究部論集、査読無、人文科学編10-7、2010、29-42  
②亀井森、長沢伴雄の苦悩ー加納諸平毒殺未遂事件前後ー、青山語文、査読有、38号別冊、2008、6-12

〔学会発表〕(計1件)

- ①亀井森(代表)、台湾大学長澤文庫の意義と有用性について、台大図書館典藏日文線装書之研究価値講演会、2010年3月22日、台湾大学

〔図書〕(計3件)

- ①亀井森主編、国立台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第3巻、2009、230  
②亀井森主編、国立台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第2巻、2008、280  
③亀井森主編、国立台湾大学図書館、長沢伴雄歌文集 絡石の落葉 第1巻、2008、252

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

<http://kasasagi0629.blog74.fc2.com>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

高橋 昌彦 (TAKAHASHI MASAHIKO)  
福岡大学・人文学部・准教授  
研究者番号：00216756

### (2) 研究分担者

川平 敏文 (KAWAHIRA TOSHIFUMI)

熊本県立大学・文学部・准教授  
研究者番号：60336972  
(H19→H20：連携研究者)

勝又 基 (KATSUMATA MOTOI)

明星大学・日本文化学部・講師  
研究者番号：00409533  
(H19→H20：連携研究者)

山田洋嗣 (YAMADA HIROTSUGU)

福岡大学・人文学部・教授  
研究者番号：30200736  
(H19→H20：連携研究者)

### (3) 連携研究者

亀井 森 (KAMEI SHIN)

佐賀大学・地域学歴史文化研究センター・  
教務補佐員

研究者番号：40509816  
(H20より)